

第6回美しい多摩川フォトコンテスト審査講評

- 日 時 平成26年1月21日
- 会 場 青梅信用金庫本店1Fギャラリー
- 審査委員 委員長：佐藤 秀明（日本写真家協会会員）
委 員：瀬戸 豊彦（風景写真家）
委 員：榎戸 勝洋（フィルムアーカイブス青梅）
- 応募作品 280点（78名）
内訳 ・多摩川の風景・人々部門・・・187点
・多摩川夢の桜街道 部門・・・ 93点

（総評）

- 今回の応募作品は、従来から撮影されてきた同じ場所での桜の写真が多く、また、調布より下流の中・下流域の写真が少なかったのが残念でした。多摩川の風景部門の作品では、少しマンネリの傾向が見られましたが、写真の技術としては面白いものも多数ありました。しかし、飛び抜けた作品が少なかったのも事実です。今後の皆さんの更なる研鑽を期待しています。

（感想・意見）

- 今回は全体的に、デジタル写真の印刷が雑でした。フィルム時代は、写真の仕上がりまでの過程でプロの手が入っていましたが、このごろは、年配者の応募が多く、不慣れなパソコン操作で印刷まで自分で作業しており、どれが本当に良い仕上げの写真なのか分かっていない方が多いと思います。
- 写真のトリミングをもう少し考えてほしい。余計な物が写っている写真が多くあるので、勿体無いと思いました。しかし、構図として良い作品も多数ありました。
- 桜は花の色が命ですが、空の色と花の色が同じ系統の色で、不鮮明となっている作品もあり、残念です。

（反省・課題）

- 広報の仕方を考え、もっと数多くの応募者・応募点数があってもよいのでは。
- 応募作品にマンネリ化が見られるので、審査の方も常に進化していかなくて

はならないと思う。何か新しい発見をしてほしい。

○このフォトコンテストをより多くの人に知っていただき、皆さんで盛り上げていきたい。そのための広報をよろしくお願いします。

○応募者の高齢化が進んでいるので、若い方の応募をどう喚起したら良いのか、今後の課題です。

以 上